

中部電力株式会社 浜岡原子力発電所4号炉 高経年化技術評価質問事項

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項	回答 終了日
1	共通	1	本冊	共通	共通	-	-	11	「原子力規制法に基づく定期事業者検査を受検するとともに、定期事業者検査についても、定期安全管理審査において審査されている」の記載はいつ時点の説明か(炉規法改正前か)、また現行の法令ではどのような妥当性の確認が行われているかが不明瞭なので、明確に記載すること	
2	共通	2	本冊	共通	共通	-	-	12	第一パラグラフに記載されている各検査及び審査の法的位置づけについて現行の法令での対応を明確に記載すること	
3	共通	3	本冊 補足説明資料	共通	共通	3.(1)	①	13 補足 P17	「(4)保全の実施」: 保全活動の、運転監視、巡視点検、定期的な試験及び点検について具体的に記載すること。	
4	共通	4	本冊	共通	共通	-	-	14	「減肉管理手引」の内容の説明を記載すること。	
5	共通	5	本冊	共通	共通	-	-	15	「原子炉冷却材再循環ポンプ入口配管除染座のキャップ化」: 「キャップ化」の効能を簡単に記載すること。	
6	共通	6	本冊	共通	共通	3.(1)	①	18	3.4評価において、「技術評価書(案)の作成等について、株式会社中部プラントサービスへ委託を行った」、また、「当社は、委託先から提出された技術評価書(案)等の成果物の内容について確認している」と記載している。中部電力による確認の責任分担についての、中部プラントサービスに評価書案作成と関係を明記すること。また、これとP18「3.1」土木課長及び建設課長は・・・評価書を作成している」の関係を含めて説明すること。	
7	共通	7	本冊	共通	共通	3.(1)	①	24	検査対象とした主な原子力規制委員会指示文書として、2021年7月に「実用発電用原子炉及びその付属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」が改定されているが、保全に反映した内容を説明すること。	
8	共通	8	補足説明資料	共通	共通	3.(1)	①	9	「(7)最新知見及び運転経験の反映」に記載のある調査範囲が限定されているが、調査範囲として足りているか説明すること。	
9	共通	9	本冊	共通	共通	3.(1)	②	3	評価にあたってプラント状態を高経年化対策実施ガイドで定義される「冷温停止状態」ではなく「安定停止状態」としているが、両者の違いの詳細、及び定義の違いによる個別の劣化評価の環境条件等の違いについて網羅的に説明すること。	
10	共通	10	本冊	共通	共通	3.(1)	③	23	4.1高経年化技術評価対象機器の抽出において、他号炉(例えば3号炉)との共用施設を評価対象機器から除外しているものはないか説明すること。	
11	共通	11	別冊	共通	共通	-	-	全体	他プラントと同様に機器の使用材料をJIS記号等で具体的に記載すること。	
12	共通	12	補足説明資料	共通	共通	-	-	全体	「安定停止状態」のタイミングに関して、浜岡3号では冷温停止状態を炉水温度100℃未満としていたものを、浜岡4号炉の評価では「原子炉圧力容器締付ボルトが1本以上緩められる状態」としたことによる浜岡3号との評価対象設備や評価条件の違いについて説明すること。	

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項	回答 終了日
1	低サイクル 疲労		補足説明資料	-	-	-	-	全体	「疲労割れ」を「低サイクル疲労」に記載を統一すること	
2	低サイクル 疲労		補足説明資料	容器	原子炉圧力容器	3.(1)	⑦	5	下鏡の評価点が非接液部であることの説明を追記すること	
3	低サイクル 疲労		補足説明資料	炉内構造物	炉心シュラウド	3.(1)	⑩	12	炉心シュラウドの疲れ累積係数が0であることについて計算過程を示すこと	
4	低サイクル 疲労		補足説明資料	-	-	3.(1)	⑩	別紙4	疲れ累積係数の算出に用いた解析モデルの詳細(メッシュ、要素種類、要素数等)を示し、併せて最大応力評価点をそれぞれの図中に記載すること	
5	低サイクル 疲労		別冊	炉内構造物	炉心シュラウド	3.(1)	⑩	37	疲労割れを劣化モードとして抽出しているが、応力源は何か。また、支持ロッドが含まれない理由を説明すること	

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	照射脆化	1	別冊	容器	原子炉容器	3.(1)	⑫	2-14	「また、設計上、低温の水が導かれるようなノズルにはサーマルスリーブが設けられており、原子炉圧力容器が急速に冷却されないようになっている。」と記載があるが、図等を用いて具体的に説明すること	
2	照射脆化	2	別冊	容器	原子炉容器	-	-	2-15	図2.3-2中に記載されている $\Delta RTNDT$ について、説明がないまま $\Delta RTNDT$ としているため、関連温度移行量(°C)の記載に修正すること。また、横軸の運転年数(EFPY)について、説明すること。	
3	照射脆化	3	別冊	容器	原子炉容器	3.(1)	⑩	2-15	図2.3-2中の $\Delta RTNDT$ 計算値が記載されている理由について説明すること。また、必要に応じて図を全体的に見直すこと	
4	照射脆化	4	補足説明資料	容器	原子炉容器	3.(1)	⑫	5	中性子照射量が $1.0 \times 10^{21} n/m^2$ を超えると予測される炉心領域に低圧注水ノズル(N6)があるが、代表から除外される理由として、胴板に比べ中性子照射量が小さいだけでは不十分である。照射脆化には、照射量だけではなく、化学成分も重要な要因となるため、化学成分を明確にした上で代表から除外されることを説明すること。また、胴板とは違い構造不連続部であるため、応力の影響についても説明すること	
5	照射脆化	5	補足説明資料	容器	原子炉容器	3.(1)	⑫	7	監視試験片は母材(胴板4)のものと推測される。胴板3では無く、胴板4で代表できることを関連温度を比較して説明すること。説明の際には、軸方向の中性子照射量の分布を用いて説明すること	
6	照射脆化	6	補足説明資料	容器	原子炉容器	3.(1)	⑩	7	「表4 監視試験結果」において、初期値の関連温度は実測値か。他の値等を用いている場合は、その数値を用いる根拠等を注記等で説明すること	
7	照射脆化	7	補足説明資料	容器	原子炉容器	3.(1)	⑫	8	第1回監視試験データを使用しないことの説明をすること	

中部電力株式会社 浜岡原子力発電所4号炉 高経年化技術評価質問事項

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	IASCC	1	補足説明資料	炉内構造物	上部格子板	3.(1)	⑬	7	現状保全において、IASCCを考慮して目視点検(VT-3)と自主点検として水中カメラによる目視点検(MVT-1)を実施している。定期的に行われているVT-3は、規格上亀裂の点検を目的としたものではない。現状保全として、目視点検がVT-3と保全頻度のない自主点検で満足していることを説明すること	
2	IASCC	2	補足説明資料	機械設備	制御棒	3.(1)	⑬	10, 11	現状保全において、目視点検(VT-3)が行われているが、現状保全としてIASCCの発生・進展が確認できることを説明すること	

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目 No.	ページ	質問事項	回答 終了日
1	2相ステンレス鋼の熱時効	1	補足説明資料	-	-	3.(1) ①	5	他プラントでは使用温度を公開しているが、本補足説明では非公開とする理由について説明すること	
2	2相ステンレス鋼の熱時効	2	補足説明資料	ポンプ	原子炉冷却材再循環ポンプ	3.(1) ③	5	代表機器としてPLRポンプ出口弁を選定した根拠(数値)を記載すること	
3	2相ステンレス鋼の熱時効	3	補足説明資料	-	-	3.(1) ⑦	5	時効時間及びフェライト量を記載すること	
4	2相ステンレス鋼の熱時効	4	補足説明資料別冊1	ポンプ	原子炉冷却材再循環ポンプ	3.(1) ①	1.2	熱時効評価において、引用している発電技研報告書には「BWRの炉水温度(約280°C)における熱時効による材料の影響は大きくない」という記述はされていない。根拠となる文献を適切に引用すること(概要説明資料18ページも同様)	

通し番号	事象	No	評価書分類	機種分類	構造分類	劣化要因	審査ガイド項目	No.	ページ	質問事項	回答終了日
1	絶縁低下	1	別冊	ケーブル	共通	絶縁低下	(1)	⑦	1.2	表1記載の高圧、低圧、同軸ケーブル製造メーカーを示すこと	
2	絶縁低下	2	別冊	ケーブル	高圧ケーブル	絶縁低下	(1)	⑦	1-5	高圧ケーブルのこう長を示すこと。また、ジョイントの有無を示すこと	
3	絶縁低下	3	補足説明資料	共通	共通	絶縁低下	(1)	⑬	添付資料-1	代表機器の機器名、評価対象部位、保全項目、判定基準及び点検頻度の表について、判定基準の設定根拠、冷温停止時の点検頻度の設定の考え方を示すこと	
4	絶縁低下	4	別冊	ケーブル	光ファイバ	特性変化	(1)	⑬	4-7	シース及び心線被覆の劣化について、外部からの水分混入は考えがたいことから、ケーブルに要求される光信号機能の維持に対する影響は極めて小さいとしている。また、これまでにケーブルに接続されている機器運転時の動作実績から、有意なシース及び心線被覆の劣化による光信号伝送機能への影響は確認されていないとしている。光信号の減少について、30年経年しても減少しないことを測定等で確認している場合はデータを示すこと。また、水分はどの程度以上で影響を与えるのか定量的に示すこと	
5	その他(気密性低下)	5	別冊	容器	電気ペネ	その他(機密性低下)	(1)	⑪	3.2-8	電気ペネトレーションのシール材(エポキシ樹脂)の劣化による気密性低下について、考え方を説明すること	
6	絶縁低下	6	補足説明資料	ポンプモータ	高圧ポンプモータ	絶縁低下	(1)	⑬	4	4.2 現状保全において「当面の安定停止状態においては、その運転状態を考慮した追加的な点検等を行っている」とあるが、追加的な点検等とは具体的にどうか、説明すること	
7	絶縁低下	7	別冊	低圧モータ電源設備	低圧モータ	絶縁低下	(1)	⑪	2-17	固定子コイル、口出線を○(高経年化対策上着目すべき経年劣化事象)としない理由を説明すること。また、補足説明資料 P3に評価対象機器としてあげない理由を説明すること	
8	絶縁低下	8	別冊	電源設備	高圧閉鎖配電盤	絶縁低下	(1)	⑪	1-11 1-12	断路器、計器用変圧器、主回路断路器部を○(高経年化対策上着目すべき経年劣化事象)としない理由を説明すること。また、補足説明資料 P3に評価対象機器としてあげない理由を説明すること	

中部電力株式会社 浜岡原子力発電所4号炉 高経年化技術評価質問事項

通し番号	事象	No	評価書分類	構造分類	劣化要因	審査ガイド項目	No.	ページ	質問事項	回答終了日
1	コンクリート&鉄骨	1	本冊 補足説明資料	コンクリート	共通	3.(1)	⑪	P25 P8	本冊4.2.3の要領に基づき、コンクリート構造物の強度低下に対する経年劣化要因は補足説明資料P8表5に記載された7項目(熱、放射線照射、中性化、塩分浸透、アルカリ骨材反応、機械振動、凍結融解)となっている。経年劣化メカニズムまとめ表には化学的浸食、酸性雨等による強度低下も記載されているが、それらが経年劣化要因から外れた経緯を補足説明資料に示すこと。	
2	コンクリート&鉄骨	2	別冊 補足説明資料	コンクリート	熱	3.(1)	⑬	P19 P14	熱による強度低下について、技術評価書P19に記載された定期的な目視点検の結果(補修の有無を含む)が熱に起因するものかの関係性(可能性)を整理し補足説明資料に示すこと。	
3	コンクリート&鉄骨	3	別冊 補足説明資料	コンクリート	放射線照射	3.(1)	⑫	P21 P15	中性子照射による強度低下について、Hilsdorf他の文献では 1×10^{19} n/cm ² より大きい中性子照射はコンクリートの強度に弊害を及ぼす可能性があるとして記載されている。技術評価書P21では圧縮強度について「Hilsdorf他の文献によると、図6に示すように少なくとも 1×10^{20} n/cm ² 程度の中性子照射量では有意な強度低下は見られない」としており、文献著者と異なる見解を示した技術的根拠を補足説明資料に示すこと。	
4	コンクリート&鉄骨	4	別冊 補足説明資料	コンクリート	放射線照射	3.(1)	⑫	P21 P15	中性子照射による強度低下について、Hilsdorf他の文献、小嶋他の試験結果、日本原子力研究所の試験結果及び浜岡4号炉の解析結果に記載された中性子照射量(n/cm ²)の中性子エネルギー範囲を示すこと。その際、浜岡4号炉の解析結果(補足説明資料別紙4)における中性子束(E > 0.1MeV)と単位を合わせる。単位が合わない場合は浜岡4号炉の解析結果と比較するための考察を加えること。	
5	コンクリート&鉄骨	5	別冊 補足説明資料	コンクリート	放射線照射	3.(1)	⑬	P21 P15	放射線照射による強度低下について、技術評価書P21に記載された定期的な目視点検の結果(補修の有無を含む)が放射線照射に起因するものかの関係性(可能性)を整理し補足説明資料に示すこと。	
6	コンクリート&鉄骨	6	補足説明資料	コンクリート	中性化	3.(1)	⑫	P16	補足説明資料P16表13に記載された中性化深さ実測値の測定結果について、平均値の元となるデータを示すこと。	
7	コンクリート&鉄骨	7	補足説明資料	コンクリート	塩分浸透	3.(1)	⑫	P17	補足説明資料P17表14に記載された塩分浸透の測定結果について、平均値の元となるデータを示すこと。	
8	コンクリート&鉄骨	8	補足説明資料	コンクリート	塩分浸透	3.(1)	⑫	P8-1~ 3	補足説明資料別紙8の拡散方程式の回帰分析結果の算出において、初期含有塩化物イオン濃度(Cint)をどのように扱ったのか、その検討過程を示すこと。	
9	コンクリート&鉄骨	9	補足説明資料	コンクリート	塩分浸透	3.(1)	⑫	P8-1~ 3	補足説明資料別紙8の拡散方程式の回帰分析結果について、どの実測値(平均値の元となるデータ)を使用したものかを示すこと。また、各実測値の結果及び拡散方程式のグラフ(縦軸:塩化物イオン量、横軸:コンクリート表面からの深さ)を示すこと。	
10	コンクリート&鉄骨	10	補足説明資料	コンクリート	塩分浸透	3.(1)	⑫	P8-1~ 5	補足説明資料別紙8表2の腐食減量の結果について、どの実測値(平均値の元となるデータ)を使用したものかを示すこと。また、各実測値の結果を示すこと。	
11	コンクリート&鉄骨	11	補足説明資料	コンクリート	アルカリ骨材反応	3.(1)	⑫	P10	補足説明資料P10表9のアルカリ骨材反応に関する試験方法(技術評価書ではJCI-DD2と記載)及び参考文献を補足説明資料に示すこと。また、試験片の採取場所を示すこと。	
12	コンクリート&鉄骨	12	別冊 補足説明資料	鉄骨構造物	オイルダンパ強度低下	3.(1)	⑧	P13.16 P10.12	オイルダンパの強度低下(摩耗)について、3号炉と異なり、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象(日常劣化管理事象以外)▲と整理している理由を具体的に説明すること。	

中部電力株式会社 浜岡原子力発電所4号炉 高経年化技術評価質問事項

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目 No.	ページ	質問事項	回答 終了日
1	その他 SCC	1	別冊	配管	ステンレス鋼配管	3.(1) ⑬	1-14	「取替や補修、高周波誘導加熱処理等による残留応力改善措置」を実施した箇所を図を用いて示すこと。また、高周波誘導加熱処理等の等は何を実施しているのか示すこと。	
2	その他 SCC	2	別冊	炉内構造物	炉心シュラウド支持ロッド	3.(1) ⑬	39	炉心シュラウド支持ロッドの材質、検査計画を説明すること。	
3	その他 SCC	3	別冊	炉内構造物	炉心シュラウド支持ロッド	3.(1) ⑬	39 42	炉心シュラウド支持ロッドで粒界型応力腐食割れが発生しないとする根拠を説明すること。	
4	その他 SCC	4	別冊	炉内構造物	炉心シュラウド支持ロッド	3.(1) ⑬	39 42	炉心シュラウド支持ロッドの締め付け力管理及び照射スウェリング、照射下クリープに対する評価結果を説明すること。	
5	その他 SCC	5	別冊	炉内構造物	シュラウド	3.(1) ⑬	7	島根2号炉シュラウドサポートのマンホールカバーでSCCが発生していることから、「マンホール蓋については、海外プラントでの・・・」ではなく、「・・・国内外プラントでの・・・」とするのが適切ではないか。	
6	その他 SCC	6	別冊	炉内構造物	シュラウド	3.(1) ⑬	39	「上部リング縦溶接線(V1内)近傍及びビスカートと上部リング周溶接線近傍の水中カメラによる目視点検及び超音波探傷試験により確認したひび割れは、炉心シュラウドの構造健全性に影響を及ぼすものではない」とした根拠を説明すること。	
7	その他 SCC	7	補足説明 共通事項	-	-	3.(1) ⑬	2-76	粒界型応力腐食割れに対して「応力腐食割れ感受性を低減した材料を使用している。」とあるが、具体的な材料名及び感受性が低いとした根拠を示すこと。	
8	その他	8	別冊	-	-	3.(1) ⑦	全体	使用している材料の記載で、高ニッケル合金とニッケル基合金の使い分けを説明すること。	
9	その他 高サイクル 疲労	9	-	-	-	3.(1) ⑬	-	浜岡5号で発生した非常用DGのペローズ破損対策の水平展開状況を示すこと。	
10	その他 熱疲労	10	補足説明資料 (共通事項)	容器	原子炉圧力容器	3.(1) ⑬	-	給水ノズルサーマルスリーブの熱疲労対策について示すこと。	
11	その他 熱疲労	11	補足説明資料 (共通事項)	容器	原子炉圧力容器	3.(1) ⑬	-	出入口管台のクラッド等の熱疲労対策について示すこと。	

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項	回答 終了日
1	耐震	1	冷温停止 概要版 補足説明資料	耐震	共通	3.(1)	⑩-1	22 6	耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果において、炉内構造物の中性子照射による靱性低下(Δ②事象区分)の結果を「一」とする理由を注記すること。	
2	耐震	2	冷温停止 概要版 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑪-1	47 21	浜岡原子力発電所3号炉と比較の表において、備考に「靱性低下については・・・目視点検(MVT-1)で健全性を確認・・・」とあるが、靱性低下そのものは目視で確認できないので、適切に修正すること。	
3	耐震	3	冷温停止 概要版 別冊	耐震	共通	3.(1)	①	24,36,46,50 5,6	評価に用いる地震動の見直しに伴う耐震安全性の再評価の方針、手順、工程等を適切に提示すること。	
4	耐震	4	冷温停止 概要版 別冊	耐震	共通	3.(1)	①	24 5,6	再評価においてバックチェックのSsと新規制基準ベースのSs、弾性設計で用いるSd又はS1を用いる考え方について整理して説明すること。	
5	耐震	5	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	-	-	浜岡3号機の高経年化技術評価との相違点を整理し、提示すること。	
6	耐震	6	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑫-1	5,6	評価に用いる地震動は、浜岡3号機の高経年化技術評価と同様にバックチェックで算出したSs地震動(最大800Gal)と基準地震動S1(最大450Gal)とした結果を提示すること。	
7	耐震	7	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑫-1	8	冷温停止の維持状態での劣化の想定期間と評価期間との対応(劣化が進行する事象と進行しない事象等)を提示(図示を含む)すること。	
8	耐震	8	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑫-1	10	駿河湾の地震による地震動の影響評価について、浜岡3号機の高経年化技術評価と同様に具体的内容を提示すること。	
9	耐震	9	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑫-1	15,21	表2.4(5/22,11/22)の経年劣化事象(粒界型応力腐食割れ、中性子照射による靱性低下)の事象区分を■とする判断理由として「安定停止状態においては・・・発生・進展の可能性は小さい・・・」等とあるが、これまでの運転による発生・進展の説明を提示すること。	
10	耐震	10	冷温停止 別冊	耐震	共通	3.(1)	⑫-1	16	表2.4(6/22)に関して、同表に記載のないステンレス鋼配管の粒界型応力腐食割れに対する事象区分とその判断理由を具体的に提示すること。	

中部電力株式会社 浜岡原子力発電所4号炉 高経年化技術評価質問事項

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項	回答 終了日
11	耐震	11	冷温停止 別冊	耐震	熱交換器	3.(1)	⑱-1	3.2-6	耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象として浜岡3号機で抽出した余熱除去熱交換器の胴の全面腐食を抽出しない根拠を提示すること。	
12	耐震	12	冷温停止 別冊	耐震	容器	3.(1)	⑱-1	3.4-9	耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象として浜岡3号機で抽出した格納容器の配管貫通部(ペローズ)の疲労割れを抽出しない根拠を提示すること。	
13	耐震	13	冷温停止 別冊	耐震	炉内構造物	3.(1)	⑱-1	3.7-9	耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象として浜岡3号機で抽出した上部格子板の中性子照射による靱性低下を抽出しない根拠を提示すること(上記Q5と関連あり)。	
14	耐震	14	補足説明資料	耐震	配管	3.(1)	⑳-1	別紙1 (添付資料1-3)	復水系の減肉耐震配管のサポート追設補強工事前後の耐震評価の具体的内容を提示すること。	
15	耐震	15	補足説明資料	耐震	配管	3.(1)	⑦	別紙2	原子炉格納容器内外の配管のアイソメ図等を用いて、安定停止の維持に必要な評価対象の配管の材質とFAC管理ランクを提示すること。	
16	耐震	16	補足説明資料	耐震	配管	3.(1)	⑳-1	別紙2	耐震上の管理値が評価対象配管の振動応答特性上又は構造・強度上、影響が「有意」とならない」とする具体的内容を提示すること。	
17	耐震	17	補足説明資料	耐震	配管	3.(1)	⑳-1	別紙3	原子炉冷却材再循環系及び給水系において、減衰が浜岡3号機と異なる理由を、3号機と4号機の構造図を踏まえて説明すること。	
18	耐震	18	補足説明資料	耐震	炉内構造物	3.(1)	-	別紙4	炉心シュラウド支持ロッドの疲労について参照する「(共通事項)補足説明資料 別紙5」が確認できない。誤記であれば適切に修正し、参照元を補足説明資料に追加すること。	
19	耐震	19	補足説明資料	耐震	炉内構造物	3.(1)	⑳-1	別紙4	溶接部に発生したひび割れについて、浜岡3号機の高経年化技術評価と同様に健全性評価の具体的内容を提示すること。	
20	耐震	20	補足説明資料	耐震	炉内構造物	3.(1)	⑳-1	別紙4	炉心シュラウドの疲労割れに対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	
21	耐震	21	補足説明資料	耐震	容器	3.(1)	⑳-1	別紙5	原子炉圧力容器の胴の中性子照射脆化に対する評価について、供用状態(耐圧・漏えい試験(未臨界))でなく冷温停止の維持状態での線形破壊力学に基づく評価(破壊靱性値と地震力による応力拡大係数の関係の図示を含む)の具体的内容について提示すること。	
22	耐震	22	補足説明資料	耐震	熱交換器	3.(1)	⑳-1	別紙6	ボルトの全面腐食に対する評価について、谷径断面の後打ちアンカーと呼び径断面の機器付基礎ボルトの適用区分をJSME設計・建設規格、JEAG4601の関連項目とともに提示すること。	

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項	回答 終了日
23	耐震	23	補足説明資料	共通事項	配管	3.(1)	㊹-1	補足説明資料 (共通事項) 別紙2	RHR熱交換器出口配管の高低温水合流部の高サイクル熱疲労割れの耐震上の扱いを提示すること。	